

生研 ニュース

PHOTO 岡宮誠一



1994.6.1
No.28

IIS TODAY

●第5部
A.S.ヘーラト
助教授

ヘーラト先生の出身はスリランカ。本来であれば、静かな仏教の国である。穏やかな笑顔が印象的だ。降雨が河川水や地下水として流出する過程のモデリングと防災工学への応用を専門とされる。対象地域はわが国以外にフィリピン、タイなどアジア各地をカバーし幅広い。偶然お会いするのはむしろ外国の空港カウンターの方が多いように筆者も記憶する。国際災害軽減工学研究センター（INCEDE）のスタッフとしても活躍されている。

仕事を組織的、効率的に進めるためのパソコン（マッ

ク）利用術の大家でもいらっしゃる。どんなソフトが話題になっているか、その実力はどうかなどヘーラト先生にお聞きするのが早くて確実である。仕事の話からコンピュータの話になると流暢な日本語がさらに加速する。

日本で生活すること9年。本学の博士過程終了後、しばらく企業で仕事をされてから母校の教官とられた。仕事中毒的な人間の多い（日本人）研究者のなかにおいて仕事と家庭とのバランスに優れていらっしゃる。土曜日は「主夫」の日なのだそうだ。（R.S）

■退官記念講演会開催される

佐藤教授退官記念講演会

3月25日に第1会議室において、「加工分野に新領域をもとめて」と題して、東京大学を退官された佐藤壽芳教授の記念講演会が開催されました。佐藤教授は平成2年4月から、本所第2部教授より通産省工業技術院機械技術研究所に所長として移られ、昨年

は先端科学技術研究センター客員教授として再び東京大学にて教鞭をとられました。生研、機械技研、先端研とご活躍の場を変えられ、幅広いご研究成果を通じて得られた貴重なお話を伺うことができました。先生の今後のますますのご活躍をお祈り致します。(Y.S)



古屋講師(工場長)退官記念講演会

2
去る3月30日に、試作工場主催による表記の講演会を行いました。内容は、「研究実験に必要な安全管理」と「私の東大44年の歩み」で、参加者は原島所長をはじめ多数の教職員により盛況でした。安全管理については、詳細なテキストに加えてOHPで問題点を話され、安全管理は、全所員が取り

組むべき重要な課題であることを、認識することができました。「私の東大44年の歩み」は、戦後の混乱期から今日までの、広範囲にわたる面白い経験談で、もっと詳しく聞きたい内容でしたが、時間設定の短いのが悔やまれた次第です。

(試作工場 岡本伸英)



■日本に来て学んだことは……。外国人研究者との懇談会開かれる!

毎年恒例の外国人研究者留学生と関係教職員の懇談会が、3月11日(金)健保会館で開かれた。この

会も回を重ねるごとに盛会となり、今回は約200名の参加者を数えた。第3部の生駒教授の司会により会

が進行し、原島所長の海外ブランド品を話題とした挨拶に始まり、スピーチの苦手な国際交流室長木村教授の発声による乾杯を経て懇談へと移っていった。留学生によるスピーチでは、日本に来て学んだ特筆すべき事項の披露があり、留学生の実態をかいまみることもできた。最後はミスター生研岡宮さんの陣頭指揮による集合写真撮影でお開きとなった。(N.Y)



アジア学術セミナー

“経済発展のための新しい環境技術”開催さる

日本学術振興会と中国科学院の合意の上に、本所（東京大学生産技術研究所）と中国科学院生態環境研究中心の合作により、上記のセミナーが去る2月、北京友誼賓館において開催されました。

アジア学術セミナーの主旨は、アジア地域の若手研究者に対し、講義と討論を通じて、科学技術の最新の問題に関する学術交流を図るというもので、平成4年度から始められた仕組みです。今回（日本以外では初めて）は「経済発展著しいアジア地域において、発展と環境問題の調和をはかるとはどのような事なのか、そのための環境技術開発の考え方の基本は何か」という問題提起のうえに、アジア地域より選ばれた参加者により緊密なセミナーが企画されました。



わが国からは、講師5名、若手研究者8名を含み、学術振興会の沢田会長、堀理事、セミナーの実行の日本側中心となった本所より原島所長、木村国際交流室長、鳥尾事務部長など、日本からは総勢24名の参加となりました。中国からの参加者は約20名、そのほか、韓国、タイ、フィリッピン、インドネシア、スリランカからの参加

者（9名）を加え、昼間の講義、夜間の討論会、見学会など充実したセミナーでありました。極寒の時期2月18日より26日までの北京ということで、参加者それぞれに想いの残る機会になったようです。このセミナーのプロシーディングスは目下編集中であり、本年度中に出版される予定です。

（4部 鈴木基之）

平成6年度新任教官研修行われる

平成6年4月8日（金）9：30～17：30、本所新規採用者等研修に合わせて、初めての新任教官研修が行われました。事務官、事務系技官については従来から新任研修が行われていますが、教官については昨年11月にまとめられた「教官倫理に関する特別委員会」の答申に基づいて実施されたわけです。出席者は、平成5年4月1日以降の発令を受けた助教授2名、講師2名、助手13名、合計17名でした。テキストには、今回新たに作

成された“生研の職員となって（事務手続の手引き）”と“教官倫理に関する特別委員会報告書”が用いられました。

本所は広く社会に開かれている点を特色とする総合工学研究所ですので、その使命を達成するためには、社会より全幅の信頼を得ることが大切です。今回の新たな試みが各教官の研究推進に役立つとともに、本所の将来のさらなる発展に貢献することを切に願っています。（第4部 二瓶好正）



■ 永年勤続者表彰式



平成6年度の東京大学職員永年勤続者表彰式が4月12日に山上会館において行われました。全学から100名、本所からは7名の方が出席され、吉川総長から表彰状をいただきました。式に引き続いて祝賀会が催され、原島所長、平野事務部長、小川総務課長補佐らを変えて、それぞれの20年を思い語りつつ、和やかなうちに散会しました。

4

第1部	文部技官・教務職員	寺田啓子
第2部	文部技官	長瀬久子
第2部	文部技官	瀬川茂樹
第4部	文部技官	鶴 達郎
第4部	文部事務官・業務掛契約主任	矢富幸枝
事務部	文部事務官・人事掛長	小林健二
事務部	文部事務官・守衛	斉藤一雄

■ 大学院学生歓迎懇談会

4月19日の午後5時30分より、恒例の大学院学生歓迎会が、のべ200名以上の参加者により第一会議室において盛大に催されました。新年度より生研の研究室に所属して大学院での研究生生活を始めることになったのは約100名で、すでに在籍している諸君と合わせると、400名の大学院生が生研に在籍することになります。所長挨拶、第二部助手大島まりさんと第一部吉澤研D3横井喜充君による歓迎の言葉、第4部白石振作教授による乾杯の挨拶などにより、「よく学び、よく遊べ」という主旨がさまざまな表現で新入生諸君に伝えられました。用意されたオードブルは早々になくなったものの、生研紹介ビデオ上映を交え、にぎやかな懇談の輪が広がりました。

(大学院学生世話人代表 岡野達雄)



PLAZA

厳寒のカナダから



第5部
講師
大賀宏行



(鹿島学術振興財団の援助を受け、平成5年2月より1年間、カナダのオンタリオ州にあるトロント大学へ客員研究員として長期出張いたしました。トロント大学では、土木工学科に籍をおき、R.D. Hooton博士のもとで、コンクリートにおける塩素イオンの浸透性状について研究を行ってまいりました。トロントに到着した夜は

体感温度 -20°C の強烈な洗礼を受け、さらに、今年の1月には最低気温 -25°C 、体感温度 -45°C を経験しましたが、どうにか無事に帰国することができました。

カナダから連想されるのは、雄大な自然だと思えますが、トロントの街はカナダ第一の都市でもあり、トロント大学のキャンパスも生研と同様にダウンタウンのほぼ中心に位置するため、大学へ通っている間は、カナダの自然を感じる機会はあまりありませんでした。ただ、日本から連れていった犬との朝晩の散歩や旅行に出かけたときには、カナダの自然に接する機会が多く、また、休日にはトロントの北方に数多く点在する湖でのカヌーやカヤックによる遊覧、スノーモービルによるツアー、クロスカントリースキー、ダウンヒルススキー等々、カナダの雄大な自然を満喫することができ、肉体的かつ精神的にもリフレッシュのできた一年間を過ごすことができました。

●外国人研究者講演会

3月7日(月)

司会：田中助教

Prof. Jacob Klein
Department of Materials and Interfaces
Weizmann Institute, Israel
"Complete and partial wetting from polymer mixtures"

3月4日(金)

司会：鈴木(基)教授

Prof. Horvath Geza
University of Veszprem, Hungary
"Micropore Structures and Problems of their Determination"

3月4日(金)

司会：鈴木(基)教授

Dr. S. Farooq
Lecturer National University of Singapore
Singapore
"Computer Simulations of Pressure Swing Adsorption"

3月7日(月)

司会：橋本助教

Prof. Tzyh-Jong Tarn
Center for robotics and automation
Washington University, U.S.A.
"Event-Based Planning and Control for Multi-Robot Coordination"

3月7日(月)

司会：橋本助教

Prof. Ludolf Lauber
Institute for Automation and Software Engineering
University of Stuttgart, Germany
"Concurrent Development of Computer Based Systems"

3月7日(月)

司会：橋本助教

Prof. Kazuhiko Kawamura
Vanderbilt University, U.S.A.
"Research activities on intelligent robotic systems using flexible actuators"

3月7日(月)

司会：ヘーラト助教

Prof. Leonardo Q. Liongson
National Hydraulic Research Center
University of Philippines, Filipino
"Problems of modeling lahar flow"

3月7日(月)

司会：ヘーラト助教

Ass. Prof. Epifanio D. Lopez
Department of Geodetic Engineering
University of Philippines, Filipino
"Use of RS/GIS for Lahar (volcanic mud flow) Risk Mapping"

3月17日(休)

司会：谷口助教

Assistant Prof. Jeffrey J. Derby
Department of Chemical Engineering and Material Science
University of Minnesota, U.S.A.
"Massively Parallel Finite Element Analyses of Rotational and Buoyant Flows in Growth Systems"

3月24日(休)

司会：工藤教授

Prof. A. K. Shukla
Solid State and Structural Chemistry Unit Indian Institute of Science, India
"Oxide-Ion Electrolytes: Design and Applications"

4月13日(水)

司会：工藤教授

Dr. Gao Lian
Deputy Director, Shanghai Institute of Ceramics Chinese Academy of Science, China
"Recent Research Development on Nano-Ceramics in Shanghai Institute of Ceramics"

4月5日(火)

司会：橋本助教

Prof. Rodney A. Brooks
MIT AI Lab. U.S.A.
"Recent research in distributed robotic at MIT"

●客員研究員 (1994. 4月現在)

氏名	国籍・現職	受入研究室
孫 萬鈞	中国・哈爾濱工業大学副教授	第1部 黒田研
李 環會	韓国・延世大学校教授	第5部 村上研
Joo Seok Song	韓国・延世大学計算機科学科学科主任助教	第3部 今井研
Lallan Mishra	インド・バナラスヒन्दウ大学理学部化学科助教	第4部 荒木研
Michel de Labachellerie	フランス・CNRS 日本支所・科学顧問	第3部 藤田研

●博士研究員 (1993. 4月現在)

氏名	国籍・現職	受入研究室
HELWANY, Mohammad Bassam	米国・米国コロラド州 交通局技術者	第5部 龍岡研
鍾 国強	マレーシア	第5部 半谷研
崔 棟皓	韓国	第5部 村上研
John Oshinowo	ドイツ	第3部 荒川研
陳 涛	中国・中国科学技術大学助手	第3部 高木研

●生研訪問者

4月21日(休)

Mr. Peter P.M. Castro
フィリピン大学教授・フィリピン

●退官・新任・昇任のご挨拶

第1部客員部門
(多次元数値情報処理工学)
助教授

大野正弘



3月31日をもちまして第1部客員部門助教授を退官し、古巣のオリンパス光学工業㈱へ戻ることになりました。2年間という短い期間でしたが、生研の恵まれた研究環境のなかで活動できたことを感謝しています。特に、自分の専門分野における研究会を生研で開催したこと、外国人研究者と3カ月間共同研究を行ったことが印象に残ります。今後はこの貴重な経験を企業での研究に生かしていく所存です。生研はその場所、研究展開からみて民間企業と最も交流しやすい位置にあると思います。今後も生研が外部に開かれた研究所であり続けることを願ってやみません。

第4部
助教授
篠塚則子



4月1日付で助教授になりました。4部の環境計測化学部門で、環境中の有機物質一主としてフミン物質一の研究環境化学的研究、および植物生理作用を有する有機化合物の合成と機能に関する研究を行っております。フミン物質は最近環境において注目されていますが、天然の複雑な混合物で研究対象として容易な物質ではありません。今後は研究のスピードアップを心掛けたいと考えております。ご支援、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

第1部
講師
志村 努



4月1日付けて、第1部黒田研の助手から講師に昇任しました。生研には修士課程からずっとお世話になっています。大学院時代は銅蒸気レーザーを用いた画像の増幅に関する研究をしていましたが、最近はダウンサイジングして、非線型光学効果の一種であるフォトリフレクティブ効果を使った2光波混合、位相共役波発生などの研究をしています。特に増幅を伴った波面の制御、これを用いた画像処理などに関心をもっています。古典的な光学と新しい量子エレクトロニクスの融合分野という研究室の環境におりましたので、今後も伝統を生かしながら新分野を開拓し、「波面を自在に操る」ための物理現象

の研究を進めていきたいと思っています。どうかよろしくお願い致します。

インテリジェント・メカトロニクス
寄附研究部門(東芝)
客員教授
ウトキン パディム



私たちロシア科学アカデミー、制御科学研究所の、生産技術研究所との科学的協力は、5年前にはじまりました。そして、東京とモスクワの同じ分野での、2つのチームの長期的研究の先駆けであり続けました。それから、2度ほど本所に滞在する機会を得て、可変構造制御系の共同研究を進めてきました。

個人的接触に基づいた、共同研究活動は、新たな制御設計原理の理論的開発に、大いに寄与し、ロボティクス、電気駆動、乗り物での実用化に、将来有望に思えます。

この度、インテリジェント・メカトロニクス(東芝)の教授として半年間滞在することになり、大変光栄に思っています。

第1部客員部門
(多次元数値情報処理工学)
助教授
櫻井 誠



平成6年4月より多次元数値情報処理工学客員部門の助教授として併任になりました。私は、神戸大学理学部に所属しており、主に表面物理学の研究に携わっております。生研との関係は、16年前大学院修士としてお世話になったことに始まり、さらに1部辻研の助手として昭和59年から3年半ほど生研に在籍しました。これまで企業や核融合関係の目的研究など、いろいろな研究環境を経験してきましたが、再び、生研の自由でかつ落ち着いた雰囲気と調音できる機会が得られたことをたいへん嬉しく思っています。この併任では主として固体表面科学に関連した数値解析法に取り組み、生研の研究活動に少しでも貢献できればと考えています。どうぞよろしくお願い致します。

第3部
助教授
平本俊郎



本年4月1日付で第3部応用電子工学部門の助教授に就任いたしました。平成元年に第3部生駒研究室を卒業後、大手電気メーカー半導体設計開発部門のエンジニア

として5年間、半導体およびコンピュータ産業の荒波にもまれてきました。生研ではこの経験をいかして、変化の激しい半導体 LSI デバイスの分野で、将来を見据えたオリジナリティのある研究を行っていきたいと思います。皆様のご指導・ご鞭撻を賜りますようどうぞよろしくお願い申し上げます。

第3部
講師
館村純一



4月1日付で第3部電子演算工学部門の講師に就任いたしました。本年3月に情報工学専攻として電気工学科田中英彦研究室で学位を修得しました。学生時代は並列計算機上のプログラミング環境の研究を行いました。今後はこれを軸に、並列計算機システムの利用技術—アプリケーション技術からシステム実装技術まで—を研究し、特に情報メディアの中での並列計算機の活用をめざしたいと思います。また、計算機の応用分野に関して、諸分野からの御意見を賜りたく思います。勝手の分からぬ若輩者ですが、皆様のご指導・御鞭撻をお願い致します。

事務部長
平野 信



4月1日付で13年ぶりに東大に戻りまして、生研に着任いたしました。私は、昭和55年度まで本郷の工学部の事務部に約25年間勤務しておりました。生研とは研究部

と学部の違いはあるものの同じ工学の分野であるため関係の深い間柄であります。したがって、教職員の皆さんの中にも顔見知りの方々が何人もおられますので安堵して着任した次第です。

先年から東大の移転問題が新聞等に報道されるたびに大変な事だと思っておりましたが、何かよそ事のように感じていましたが、突然その対象部局のなかに転任を命ぜられ戸惑いましたが、所長をはじめ先生方のお話を伺っているうちに、生研は都市型の総合工学研究所を目指して、大きく変革を遂げようとしているパワーを感じ、われわれ事務部もこれと一体となって頑張らなければならないと思っております。

また、楽しい職場環境作りにも積極的に参加させていただきたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願い申し上げます。

経理課長
相川弘二



私は、昭和63年に事務局経理部を離れまして、北海道の農学部附属演習林、学術情報センター、埼玉大学附属図書館に赴任し、この度、経理課でお手伝いをさせていただくことになりました。

工学領域の多彩な研究と技術開発を展開する当研究所における特徴ある大きな予算をお預かりいたしまして、改めてその責任の重さを痛感しているところです。

皆様のご指導、ご助力を賜りながら、一日も早くお役に立つよう頑張りたいと存じますので、どうぞよろしくお願い致します。

AWARDS

●受賞

第1部	助手	酒井啓司	日本音響学会 粟屋潔学術奨励賞	「走査リブロン光散乱法による液面単分子膜の不均一構造の観察」	1994. 3. 24
第4部	教授	鈴木基之	(社)化学工学会 研究賞	吸着による水処理技術の研究	1994. 3. 29
第4部	教授	鈴木基之	(社)化学工学会 内藤雅喜 記念賞	吸着による水処理技術に関する研究	1994. 3. 29
第4部	助教授	加藤隆史	(社)日本化学会 進歩賞	水素結合の形成による新規液晶系の構築	1994. 3. 30
第4部	助教授	前田正史	(社)日本金属学会 功績賞	金属に関する学理、ならびに技術の進歩に対する功績	1994. 3. 31
第2部	助教授	西尾茂文	日本機械学会 論文賞	自然対流膜沸騰熱伝達に関する研究(第6報、 波状界面を有する膜沸騰熱伝達の整理)	1994. 4. 1

■ 人事異動 (平成 6 年 3 月 23 日～平成 6 年 4 月 1 日)

発令年月日	氏名	異動事項	新官職(所属)	前官職(所属)・現官職
6.3.31	古屋七郎	停年		文部教官講師(試作工場)
	李孝雄			文部教官助手(第1部)
	板橋正雄			文部教官助手(第4部)
	只木靖子	定年		文部技官(第4部)
	鳥尾幸寛			文部事務官(事務部長)
	北川嘉一			文部事務官(総務課長)
	亀谷節子			文部事務官(総務課第4部業務掛経理主任)
	根本智恵子			文部技官(総務課看護婦)
	高木幹雄	併任終了		附属機能エレクトロニクス研究センター長
	大野正弘	任期満了		客員部門助教授(第1部)
	生駒俊明	辞職		文部教官教授(附属機能エレクトロニクス研究センター)
	龍正信			文部教官助手(第2部)
	尾崎晴男			文部教官助手(第5部)
	垣内博昭			文部技官(第5部)
	鈴木敦子			文部事務官(総務課第5業務掛経理主任)
6.4.1	村上周三	併任	附属計測技術開発センター長(再任)	
	中川威雄		附属先端素材開発研究センター長(再任)	
	高木幹雄	配置換	文部教官教授(第3部)	文部教官教授(附属機能エレクトロニクス研究センター)
	喜連川優		文部教官助教授(第3部)	文部教官助教授(附属機能エレクトロニクス研究センター)
	平川一彦		文部教官助教授(第3部)	文部教官助教授(附属機能エレクトロニクス研究センター)
	尾張眞則		文部教官助教授(環境安全研究センター)	文部教官助教授(第4部)
	櫻井誠	併任	文部教官助教授(客員部門)	文部教官助教授(神戸大学理学部)
	篠塚則子	昇任	文部教官助教授(第4部)	文部教官講師(第4部)
	池野順一	転任	文部教官講師(豊橋技術科学大学工学部)	文部教官講師(第2部)
	志村努	昇任	文部教官講師(第1部)	文部教官助手(第1部)
	本田紘一		文部教官助手(第4部)	文部技官(第4部)
	ウトキン、パディム	採用	インテリジェント・メカトロニクス(東芝)寄付研究部門客員教授	
	平本俊郎		文部教官助教授(第3部)	
	館村純一		文部教官講師(第3部)	
	磯部大吾郎		文部教官助手(第2部)	
	暁道佳明		文部教官助手(第2部)	
	鎌田崇義		文部教官助手(第2部)	
	吉井稔雄		文部教官助手(第5部)	
	根岸正巳	配置換	文部事務官(理学部人事掛長)	文部事務官(総務課人事掛長)
	吉田登		文部事務官(数理学部・数理科学研究科図書課参考掛長)	文部事務官(総務課図書掛長)
	富澤敏一		文部事務官(農学部附属緑地植物実験所事務主任)	文部事務官(総務課第一部業務掛長)

発令年月日	氏名	異動事項	新官職(所属)	前官職(所属)・現官職
6.4.1	西尾勉	転任	文部事務官(宇宙科学研究所管理部主計課用度係長)	文部事務官(総務課出納掛長)
	片桐徹	昇任	文部事務官(学生課体育第一掛課外体育主任)	文部事務官(総務課用度掛)
	宮崎敬朗	配置換	文部事務官(庶務部人事課職員掛)	文部事務官(総務課人事掛)
	大久保哲也		文部事務官(庶務部研究協力課研究助成掛)	文部事務官(総務課司計掛)
	渡邊育郎	配置換	文部事務官(庶務部国際交流課)(併任 文部省学術国際局国際学術課)	文部事務官(総務課給与掛)
	平野信	昇任	文部事務官(事務部長)	文部事務官(筑波大学総務課調査課長)
	相川弘二	配置換	文部事務官(総務課長)	文部事務官(埼玉大学附属図書館事務長)
	保戸塚吉明		文部事務官(総務課企画主任)(併任 同 第三部業務掛長)	文部事務官(総務課業務主任)(併任 同 第三部業務掛長)
	田川文夫	昇任	文部事務官(総務課調査主任)(併任 同 第四部業務掛長)	文部事務官(総務課第四部業務掛長)
	渡辺道夫	配置換	文部事務官(総務課専門職員(国際交流担当))	文部事務官(総務課庶務掛長)
	南雲道男		文部事務官(総務課庶務掛長)	文部事務官(総務課出版掛長)
	鈴木和美	転任	文部事務官(総務課出版掛長)	文部事務官(国立歴史民俗博物館管理部展示課視聴係係長)
	高杉泰穂	配置換	文部事務官(総務課図書掛長)	文部事務官(薬学部図書掛長)
	中川繁		文部事務官(総務課第一部業務掛長)	文部事務官(総務課第二部業務掛長)
	武原稔子		文部事務官(総務課第二部業務掛長)	文部事務官(総務課試作工場業務掛長)
	橋本順一		文部事務官(総務課出納掛長)	文部事務官(医学部附属病院区事務課中央診療業務掛長)
	小林健二	昇任	文部事務官(総務課人事掛長)	文部事務官(医学部附属病院総務課人事掛主任)
	原好子		文部事務官(総務課試作工場業務掛長)	文部事務官(総務課研究協力掛主任)
	佐納悠司	転任	文部事務官(総務課司計掛)	日本学術振興会事業部研究者養成課文部事務官(文部省学術国際局学術課)
	鈴木極	配置換	文部事務官(総務課研究協力掛)	文部事務官(庶務部人事課給与第三掛)
	薩日内さき		文部事務官(総務課第四部業務掛経理主任)	文部事務官(総務課出版掛主任)
	海宝静枝		文部事務官(総務課第五部業務掛経理主任)	文部事務官(附属千葉実験所事務室会計主任)
	日色勢津子		文部事務官(附属千葉実験所事務室庶務主任)	文部事務官(附属千葉実験所事務室主任)
	佐々由美子		文部事務官(附属千葉実験所)	文部事務官(総務課第四部業務掛)
	古川恭江		文部事務官(総務課出版掛)	文部事務官(総務課庶務掛)
	大柳一夫		文部事務官(総務課給与掛)	文部事務官(総務課研究協力掛)
	佐藤秀	採用	文部技官(第3部)	
	吉田正裕		文部技官(第3部)	
	吉原和邦		文部技官(第3部)	
	小笠原義仁		文部技官(第4部)	
	東芳		文部技官(第4部)	
	古山純一		文部事務官	文部事務官(総務課人事掛)
	野口志帆		文部事務官(総務課研究協力掛)	
	八島樂		文部事務官	文部事務官(総務課用度掛)

■ 空き缶、空き瓶の分別回収が始まりました

おいしい水や澄んだ空気と同様に、ゴミの埋め立て場所もいつでもどこでも手に入る状況ではなくなってきました。東京湾内の埋め立て処分場はいまや都区部で最も標高が高い場所となり、不燃ごみの減量とリサイクル化が緊急の課題となっています。所内で発生する不燃ゴミのかかなりの割合が空き缶、空き瓶の類であることから、今回、生研では空き缶

や空き瓶の分別回収をスタートすることになりました。コンクリート製の可燃ゴミ入れの脇に、新たに回収容器を設置しましたので、缶・瓶は産業廃棄物コンテナには入れないで、それぞれの回収容器に入れてください。すでに行われております古紙の回収と併せて、所内の皆様のご協力をお願いいたします。
(環境改善小委員会委員長 岡野達雄)

■ 生研イブニングセミナー開催中

「エレクトロニクスの最先端と夢」

▽平成6年4月15日～7月1日 (毎週金曜日 午後6時から7時半まで)

エレクトロニクス技術は今後どのように展開し、私達に関わってくるのでしょうか。こんな疑問を抱いたら恒例のイブニングセミナーへお気軽にお越し下さい。講演の内容は最先端ですが、わかりやすく解説しますので予備知識は必要ありません。すでに、終わった分も含め、各回の講演内容は次のとおりです。(K.S)

4月	15日	ハイパーメディアの新しい展開	坂内正夫 教授
	22日	ナノテクノロジーと先端デバイス	荒川泰彦 教授
5月	13日	雷の科学とその制御	石井 勝 教授
	20日	電子波干渉デバイス	ゲルハルト ファーゾル 助教授
	27日	道路と自動車の知能化・情報化	高羽禎雄 教授
6月	10日	ロボティクス・制御の世界	橋本秀紀 助教授
	17日	光ファイバ技術の最先端	藤井陽一 教授
	24日	並列コンピュータ	喜連川優 助教授
7月	1日	ミクロの世界の機械たち	藤田博之 教授

■ 生研セミナー

コース	テーマ	講師	期日
192	ニューラルネットワークの基礎と新しい展開 (第3回)	教授 浦 環 助教授 橋本 秀紀	7月14日(木) 15日(金)
193	都市防災と地理情報システム (GIS) (第2回)	助教授 山崎 文雄 助教授 A.S. ヘーラト 助教授 柴崎 亮介	9月27日(火)
194	射出成形現象の可視化実験解析 (第3回)	助教授 横井 秀俊 助手 村田 泰彦	10月11日(火) 12日(水)
195	構造形態の解析と創生	教授 半谷 裕彦 講師 川口 健一	10月27日(木) 28日(金)
196	結像光学系の基礎	教授 黒田 和男	11月18日(金)
197	モーション・コントロールのための制御理論	助教授 橋本 秀紀	1月19日(木) 20日(金)



エイズ薬の研究

高分子材料化学

第4部 瓜生研

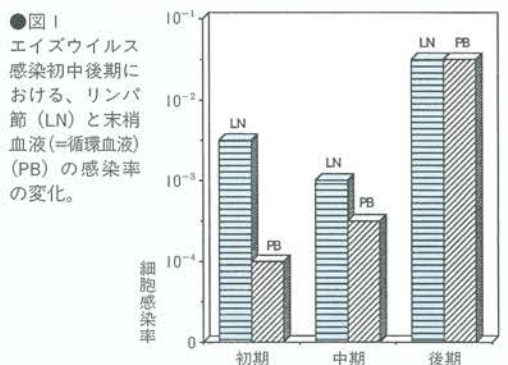
1987年1月頃からエイズ薬の研究に取りかかって、丸7年が経過した。研究室としてはこういうイチカバチカの研究ばかりするわけにはいかないので、用心して研究論文になる液晶ポリマーの合成研究、実用化になった低エネルギー電子線による高分子材料の研究やハイパーフォーメーションコンクリート用高分子材料（混和剤）の研究なども行い、それぞれ所定の目的を達成している。

7年前エイズ（後天性免疫不全症候群）に関しては、ウイルスが原因物質であること、発病者はウイルスキャリアの10%くらいであろうこと、ホモの人達の病気であることなど限られた知識しか研究者は持っていなかった。この間バイオケミストリーの進歩は目覚ましく、エイズウイルスに関する知見は膨大な量に達した。病気としてのエイズについても正確な情報が積み重なり、キャリアはほぼ100%発病すること、異性間でも性行為で感染することなどがわかってきた。一番大きな発見は1993年3月に発表された感染初期のウイルスの存在場所であろう（図1）。

エイズウイルスを扱う研究者に誰一人感染者が出ていないこともあり、今では比較的気軽に研究できるようになった。化学者が簡単に口にすると、この薬剤は活性があるとかが有効であるとかの事実と、医者・医学者が実際にこのウイルス病を治そうとする立場との間には大きなギャップがある。現在3つのエイズ薬が臨床薬として使われているが、病気を治癒させることは出来ない。

私達の合成した硫酸化多糖は、1992年12月からアメリカでPhase I/IIのテストを行っている。これはエイズウイルスキャリアを使う毒性テストの段階である。共同研究している会社が大量生産の製造プ

ロセスを完成し、3年間の実験の申請をアメリカ食品医薬品局に出している。エイズウイルスの知られていない挙動は、いと考えられているヒトの血液中にあまり多くの数が存在せず、ウイルス遺伝子としてヒト遺伝子の中に隠れていることである。何年後かにウイルスが出てきて別の非感染細胞に感染しようとする。この時、カードラン硫酸はウイルスを捉え、感染させなくするであろうことを期待している（図2）。目標とするエイズ薬は、ウイルスが細胞から産生されたら直ちにそれを分秒のオーダーで情報伝達し、ウイルスに結合し無力化する抗体を生産する細胞を作ることであろう。（第4部 瓜生敏之）



●新任挨拶

コント55号が全盛の頃、一つのコントで観客の笑いを平均14分間取り続けることができたという記録があります。さまざまなお知らせや広報の類がポストに放り込まれ続ける中で、生研ニュースは何分間（何秒間？）読者の目を引きつけておくことができるでしょうか？生研ニュースが新装開店した頃、新鮮な驚きがありました。最近はどうでしょう。

これまでの編集室の成果をさらに発展させるべく努力いたします。よろしく願います。

（新室長・柴崎亮介（第5部））

編集後記

柴崎新室長のもと、新メンバーを迎えて生研ニュース編集室も新たなスタートを切った。こここのところ6ページでの発行が多かったが、本号は久々10ページの大作となった。今後も明るいニュースを豊富に提供できることを期待している。

（Y. S）

